

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800125		
法人名	親愛ケアサービス有限会社		
事業所名	グループホーム親愛		
所在地	千葉県市川市曾谷4-4-10		
自己評価作成日	令和 4年 8月 16 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	令和4年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設から12年目となるも離職率は低く開設当初からの職員も数名在籍しています。
 ・毎月ミーティング時に様々な研修を行い職員の成長とともに利用者様に安心・安全な生活環境を提供できています。
 ・また、コロナ以前は一人ひとりに合わせた散歩や外出・外食レクも実施し個別支援に重点を置くサービスを提供していました。室内でも一人ひとりに合わせた体操やレクリエーションを実施し認知症の悪化やADLの低下を防げるよう支援しています。
 ・グループホームの理念に基づき利用者様の安心した生活と生きがいと役割を持てる毎日を送っていただけよう職員一同日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は同一法人の運営する多機能の施設で、1階は小規模多機能型居宅介護、2・3階が事業所(グループホーム)となっている。事業所は3階は介護度の高い利用者、2階は介護度の若干低めの利用者が生活をしており、生活保護受給者も受け入れている。コロナ禍なので室内で一人ひとりに合わせたレクリエーションや外食レクなどを実施して利用者にとって快適で安心・安全な生活環境を提供している。また、可能な限り近くに散歩にも出かけている。管理者を筆頭に各階のグループリーダーが中心になって職員の成長を促しながら、運営法人の理念である「一人ひとり人を大切に」を実践する生活支援に努めている。また日常生活が目に見える一言コメントをつけ、多数の生き生きとした表情の写真を掲載した月報「親愛だより」を家族等に送付しており、好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	1290800125 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアのリビングに掲示し職員に共有・実践出来るようにしている。	事業所理念は各フロアの目につくところに掲示されている。職員に年に1回程度管理者から説明があり、それ以外は各フロアリーダーが日ごろ実践のなかで共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため全て中止となっている。コロナ以前は近隣の公園の祭りなどへの参加をしていた。駆け込み110番や地域パトロールにも参加。	コロナ禍で加入している地元「木曾谷第6自治会」の活動が止まっていて、地域とのつながりが難しくなっている。近くの公園に散歩行くときに、地元の人に挨拶する程度となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナ禍であり中々機会が作れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため現在は対面では中止。年に6回資料の配布をしている。	運営推進会議は6回開催されているが、コロナ禍で外部の方が参加できなかった。市から市役所、高齢者サポートセンター及び家族の代表者と書面による会議を開催するよう要請があり実施を始めた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて相談し連携をとり、情報交換が出来るようにしている。	コロナのワクチン接種や介護保険の情報提供や指導など市川市の福祉政策課との連携を強くしている。また、生活保護受給者も入所しているので生活支援課とも密に連絡している。	
6	(5)	2022/10/7 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修・委員会を各フロアミーティングで行い、職員に周知出来るようにしている。	身体拘束廃止についての研修を行い、その後テストを実施し正しく理解しているかの確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても各フロアミーティングにて研修を行い、日常の業務中も職員同士で注意しながら業務にあたるように努めている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については理解が乏しく研修の必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者・ケアマネジャー又は計画作成者とともに説明し理解・納得をしていただけよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に要望などを聞くように努めている。	介護プランを作成する際には、職員の意見や要望を聞いたり、また家族来訪時等に聞いた内容を、運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常会話や朝礼の際に意見を聞くことが主となっている。	フロアリーダーがミーティングで職員の意見を聞くが、利用者のことや職員同士の話も多く運営に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう個々に目標を立ててもらい評価するのを今年度から開始している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修についてはコロナ禍で参加出来ずにいるが内部研修にて様々なテストなどを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やケアマネジャーはグループの他施設に訪問して情報交換や意見交換は出来ているが職員はできていない。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入する際は出来るだけ契約時などで顔見知りの管理者・ケアマネジャー・計画作成などが対応しご本人の要望や意向に沿えるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後は特に利用者様の状態を小まめに連絡しご家族からも要望などを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始1か月はご本人の様子や状態を細かく記録に残しどのサービスが必要か最適なかを相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活リズムを把握し散歩や趣味など今まで通りの生活が継続できるように努力している。また日ごろから観察をし状況によっては居室移動や席替えを柔軟にできるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えたいく関係を築いている	管理者・ケアマネジャー含めご家族と職員で協力できるように日々関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の面会希望は元々ないため実施せず。連絡があればその都度予約にて対応する。 ご本人からの希望があればお墓参りなど個人の外出も同行している。	七夕・節分・雛まつり等の昔から馴染んだ行事を提供し、往時を懐かしんで頂いている。本人や家族から要望があれば電話の取り次ぎや手紙のやり取りが出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アットホームな雰囲気の中で利用者同士の関係性も考慮しながらレクリエーションに取り組んでいる。関係性があまり良くない利用者様同士は席替えなどをして臨機応変に対応出来るように努めている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去や施設移動のご利用者様が出た場合は管理者・ケアマネジャーが積極的にご案内や相談に乗れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との日常の会話の中でご本人の意向や要望を聞くようにしている。日常会話が困難な場合は簡単な質問でご本人の意向や要望をできるだけ読み取り対応できるように努めている。	職員は利用者とのコミュニケーションを大切にし、日常の何気ない会話の中からも意向や要望をキャッチしている。意向表出の困難な場合は簡単な質問で、表情・体動等から推察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約・入居時に利用者様からだけでなくご家族からも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況・心身の状態を職員一人一人が理解・把握できるよう具体的にわかりやすく記録に残し情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に介護計画を作成し状態の変化やご本人やご家族からの要望があった場合は介護計画を見直し作成するよう努めている。	介護ソフトが導入され、日々の本人の状況や家族の希望を関係者で共有し、反映された介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランをチェック表にし毎日実践しているかなどの記録をしている。毎月チェック表を参考に介護計画も見直すように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の希望に応じ個々の生活リズムに合わせて対応できるように努めている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウイルス感染予防のため自粛中。 以前は交流をもてるよう地域の祭りやイベントに積極的に参加し月3回公園掃除などクリーン作戦を実施していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりのかかりつけ医との関係を継続し必要があれば訪問医への変更も柔軟に対応できるようにしている。	入居前からの個々のかかりつけ医との関係を継続している。事業所として4名の訪問医と契約しており希望により訪問医への変更にも柔軟に対応している。毎月訪問の歯科医・週1回訪問の看護師・薬剤師等の受け入れがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制訪問看護と契約しており週1回の健康管理を行的確な指示を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネジャーが中心となり病院等との連携・情報交換を行ない早期退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師から看取りのとの判断があった際、ご家族に看取りの指針を説明させていただき終末期のあり方なども話すよう努めている。	「医療行為が無ければホームで過ごして頂ける」事業所指針を契約時に説明している。重度化した場合家族の意思の再確認を行い、医師の説明・指示の下、家族の協力を得て職員・看護師がチームケアで取り組んでいる。今期は3名の方の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	未だに応急処置や初期対応できる道具の常備はなく職員一人一人の判断になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難確保計画などを作成し職員全員が周知できるよう各フロアミーティングで説明をしている。	火災を想定し消防署立会の下、11月に避難訓練を実施する。避難確保計画を作成しているが、現実的には2階・3階からの避難は困難なので火元から遠い所で救助隊の到着を待つ方針である。	災害に備えた備蓄品の確保がない。同法人の他施設からの応援も想定されているが、緊急用に若干の備蓄品の確保についてご一考ください。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への声掛け方、態度について毎月の各フロアミーティング時に指導している。 排泄時や入浴時などの際は扉やカーテンを閉めるなどプライバシーを守るように指導している。	毎日利用者の笑顔が見られるよう、個々に対応した声掛けや接遇方法等について、毎月のミーティング時に学んでいる。排泄時や入浴時でのプライバシーを損ねない声掛け・対応などに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時や入浴時の洋服選びなど本人の意向を大事にしながら自己決定が出来る環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活リズムを把握しご本人の希望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問理美容があるため個々にパーマ・カット・カラーを選択し自身の好みで受けられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食はチルドのものとなっているが、各階毎月1～2回は食事やおやつレクを実施し利用者様にも協力してもらっている。	ケーキ作りや焼き鳥を作る等、毎月何がしかの皆で作るおやつレクを行っている。楽しい雰囲気の中食欲も出て、目と口で味わいながら、栄養補給に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは業者の方で管理されている。 水分量は個々に記録しており一人ひとりに合った水分量を提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアの介助・又は見守りと3か月に1度訪問歯科の定期検診を受け清潔保持に努めている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員が把握しトイレ誘導を行なう等、可能な限り自立に向けた支援を行なっている。	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行なう等、可能な限りトイレでの排泄に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や軽く身体を動かすなど個々にあった予防を行っている。(水分摂取含め)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴は決まっているがその日の体調や本人の希望で変更できるようにしている。	週2回の入浴支援があり、皮膚状態の観察を記録している。2階には機械浴の設備があり、本人の状態により対応に努めている。体調や気分等での時間の変更等にも柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を含め本人の希望や体調によって職員が声掛けするようにしている。昼夜逆転にならないよう日中は散歩やレクを行い夜間に安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各フロアに利用者様の薬表を置き薬剤についていつでも確認できるようにしている。変更があった場合には職員の連絡ノートに記入に周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方は毎日ご自身の居室の掃除や洗濯物畳みなど役割を持っていただけるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルス感染予防のため中々外出出来ないが、希望があった際は本人希望でお墓参りなどにも同行している。	コロナ禍で外出は中止しているが、感染症対策をしてホーム周りの見慣れた風景の中、外気浴や気分転換を兼ねてミニ散歩をしている。お墓参り等の個々の要望には、都度対応し家族からも喜ばれている。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理出来る利用者様がほとんどおらず、盗難防止もあり基本的には金銭は持ち込まないようにしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様やご家族から要望があれば電話・手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すために壁に季節の装飾などをし利用者様が作成したものなども飾るように心掛けている。	玄関にはコロナ禍対応のため消毒液等が設置され、廊下や居間等の壁面には季節に合わせた装飾や花・利用者の共同作成した作品等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様に応じて席を変えたりベランダにも自由に出入りできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんでいるものなどを持ち込んでいただきご本人が落ち着き安心できる居室になるように心がけている。写真やタンス・テーブルなども持ち込みとなっている。	使い慣れた筆筒・テーブル等を持ち込み、家族の写真等を飾り本人が安心して居心地よく過ごせるよう支援している。職員と一緒に掃除をする方も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行動制限せずに自由に生活していただき職員は見守りをしている。安全が確保されていない場合や必要があれば声掛け・介助をし自立した生活が送れるように支援している。		